

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	大阪情報コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 大阪経理経済学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
情報処理 専門課程	総合情報メディア学科	夜・通信	105 単位	12 単位	
	情報システム開発学科	夜・通信	106 単位	9 単位	
	メディアクリエイイト学科	夜・通信	103 単位	9 単位	
	情報処理科	夜・通信	72 単位	6 単位	
	IT テクニカル学科	夜・通信	80 単位	6 単位	
	IT ビジネス学科	夜・通信	84 単位	6 単位	
	ゲーム学科	夜・通信	66 単位	6 単位	
	メディアデザイン学科	夜・通信	87 単位	6 単位	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>本校ホームページの「シラバス」ページで公表  <a href="https://www.oic.ac.jp/syllabus">https://www.oic.ac.jp/syllabus</a>                  シラバストップページ                  →実務経験のある教員による授業科目の学科別合計単位数一覧                  →各学科のカリキュラム一覧(実務経験のある教員による授業科目)                      →科目名                      →科目情報                      →シラバス</p>
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪情報コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 大阪経理経済学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公開している。  
[https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc01\\_dot.pdf](https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc01_dot.pdf)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	半導体等製造開発会社 技術部門管理職（現職） 1988年2月1日から現在 に至る	令和5年11月 15日から 令和7年11月 17日まで	職業教育
非常勤	大学教授（現職）2013年 4月1日より現在に至る	令和元年5月 29日から 令和7年11月 17日まで	情報教育
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪情報コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 大阪経理経済学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 本校では、観点別に学習成果を明示した卒業認定方針(ディプロマポリシー:DP)に対応して各授業科目のシラバスを作成している。シラバスには「学習一般目標」、「授業の概要及び学習上の助言」に加えて、DP に対応した「学習到達目標」と「学修成果の評価方法」を明示するとともに、学生に対し各授業の初回に説明を行っている。「学習到達目標」については(知識・理解)(思考・判断)(態度)(技能・表現)(関心・意欲)の各観点別教育目標に沿って作成された学部 DP に対応した「学生が達成すべき行動目標」として設定している。 また、上記の趣旨、記述方法を記載したシラバス作成のためのガイドラインを定め、講師会等を通じて教員に周知している。作成したシラバスは WEB サイト、および学生ポータルサイトで公開しており、各授業初回に学生に説明している。	
授業計画書の公表方法	WEB サイト公開 <a href="https://www.oic.ac.jp/syllabus">https://www.oic.ac.jp/syllabus</a>
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学修成果の評価については、学生が達成すべき行動目標である「学習到達目標」の達成度として評価している。評価方法については、授業時間外での学習課題の設定、中間テストの実施、学生の授業への取り組み状況等によって学習意欲の把握を行うとともに、試験、レポート、作品等の方法により総合評価している。評価の実施方法、評価の割合等の詳細をシラバスにおいて明示し、学生が授業に明確な目標をもって臨めるように工夫している。授業科目の成績は 100 点満点で 60 点以上を合格とし単位を付与する。成績評価基準は、秀(90 点以上)、優(80 点以上 90 点未満)、良(70 点以上 80 点未満)、可(60 点以上 70 点未満)、不可(60 点未満)とする。	
3. 成績評価において、G P A 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本校では、履修科目の成績評価をグレードポイント(GP)に変換し、学修成果の確認や学生の自律的な学修の促進、および学生に対する修学指導等に活用している。算定方法は学生に明示しており、学生の単位取得票や成績証明書に表示され、学内奨学生や優秀者の選定における客観的な指標として活用している。

GPAの算定方法は以下の通りである。

$$4.0 \times \text{秀の修得単位数} + 3.0 \times \text{優の修得単位数} + 2.0 \times \text{良の修得単位数} + 1.0 \times \text{可の修得単位数}$$

### 総履修登録単位数(「不可」の単位数を含む)

この算定方法は「修学の手引き」に明記しており、「修学の手引き」はWEBサイトに公開している。

学科・学年のGPA分布状況は、前期・後期の成績評価後統計化し、学生の授業理解度や修学状況を適切に把握している。

客観的な指標の算出方法の公表方法	<a href="https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc51_gos.pdf">https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc51_gos.pdf</a> 「修学の手引き」 5. GPA(成績係数)について
------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

課程修了にあたって、学生が修得することが求められている知識・技能・態度等の観点別に学習成果を明示した卒業の認定方針(DP)を5項目として策定している。この認定方針は修学の手引きに明示し、Webサイトに公表するとともに、オリエンテーション等を通じて学生に周知している。卒業の認定はDPと各授業の到達目標の整合性を担保するカリキュラムマップの作成、DP項目に対応して学習到達目標を設定したシラバスによる授業展開と適切な成績評価に基づいて行っている。また、卒業の認定方針のより実践的な職業教育への具体化のために、iCD(i コンピテンシーディクショナリ)をベースとして各専門分野での職種を意識した教育課程を開発するなど継続して改善を行っている。

卒業判定は本校学務課が各学科の卒業要件に基づき卒業判定案を作成、校長が主催する会議の審議を経て、校長が卒業を認定している。

卒業の認定に関する方針の公表方法	<a href="https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc51_gos.pdf">https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc51_gos.pdf</a> 「修学の手引き」 II. 卒業に際した称号授与の方針 14. 卒業の認定
------------------	---

## 様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	大阪情報コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 大阪経理経済学園

### 1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.oic.ac.jp/about/disclosure.html">https://www.oic.ac.jp/about/disclosure.html</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.oic.ac.jp/about/disclosure.html">https://www.oic.ac.jp/about/disclosure.html</a>
財産目録	<a href="https://www.oic.ac.jp/about/disclosure.html">https://www.oic.ac.jp/about/disclosure.html</a>
事業報告書	<a href="https://www.oic.ac.jp/about/disclosure.html">https://www.oic.ac.jp/about/disclosure.html</a>
監事による監査報告（書）	<a href="https://www.oic.ac.jp/about/disclosure.html">https://www.oic.ac.jp/about/disclosure.html</a>

### 2. 教育活動に係る情報

#### ①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		情報処理専門課程	総合情報メディア学科 (単位制)		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼		講義	演習	実習	実験	実技
4年		124 単位時間/単位	単位時間 89/単位	単位時間 493/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			585 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
480人		440人	3人	11人	16人	27人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>本校では、観点別に学習成果を明示した卒業認定方針(ディプロマポリシー:DP)に対応して各授業科目のシラバスを作成している。シラバスには「学習一般目標」、「授業の概要及び学習上の助言」に加えて、DP に対応した「学習到達目標」と「学修成果の評価方法」を明示するとともに、学生に対し各授業の初回に説明を行っている。「学習到達目標」については(知識・理解)(思考・判断)(態度)(技能・表現)(関心・意欲)の各観点別教育目標に沿って作成された学部 DP に対応した「学生が達成すべき行動目標」として設定している。</p> <p>また、上記の趣旨、記述方法を記載したシラバス作成のためのガイドラインを定め、講師会等を通じて教員に周知している。作成したシラバスは WEB サイト、および学生ポータルサイトで公開しており、各授業初回に学生に説明している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学修成果の評価については、学生が達成すべき行動目標である「学習到達目標」の達成度として評価している。評価方法については、授業時間外での学習課題の設定、中間テストの実施、学生の授業への取り組み状況等によって学習意欲の把握を行うとともに、試験、レポート、作品等の方法により総合評価している。評価の実施方法、評価の割合等の詳細をシラバスにおいて明示し、学生が授業に明確な目標をもって臨めるように工夫している。授業科目の成績は 100 点満点で 60 点以上を合格とし単位を付与する。成績評価基準は、秀(90 点以上)、優(80 点以上 90 点</p>

未満)、良(70 点以上 80 点未満)、可(60 点以上 70 点未満)、不可(60 点未満)とする。
<b>卒業・進級の認定基準</b>
(概要) 課程修了にあたって、学生が修得することが求められている知識・技能・態度等の観点別に学習成果を明示した卒業の認定方針(DP)を5項目として策定している。この認定方針は修学の手引きに明示し、Web サイトに公表するとともに、オリエンテーション等を通じて学生に周知している。卒業の認定はDPと各授業の到達目標の整合性を担保するカリキュラムマップの作成、DP 項目に対応して学習到達目標を設定したシラバスによる授業展開と適切な成績評価に基づいて行っている。また、卒業の認定方針のより実践的な職業教育への具体化のために、iCD(i コンピテンシーディクショナリ)をベースとして各専門分野での職種を意識した教育課程を開発するなど継続して改善を行っている。 卒業判定は本校学務課が学科の卒業要件に基づき卒業判定案を作成、校長が主催する会議の審議を経て、校長が卒業を認定している。
<b>学修支援等</b>
(概要) クラス担任制度を導入し、ゼミナールを通じて学修指導を実施、個人の修学状況を踏まえた個別指導を実施している。特に新生に対しては、一泊合宿を実施し、将来の職種を見据えた学習へのアプローチとスケジュールを説明している。授業への出席状況は日々、把握し、欠席者には本人への指導、可能な限り保護者との三者面談を実施する等、学業継続に向けて支援している。前後期終了後には学生保護者に成績、出席状況報告を郵送する等、保護者と連携した学生支援を実施している。

<b>卒業者数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)</b>			
卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
163 人 (100%)	0 人 ( 0%)	148 人 ( 90.8%)	15 人 ( 9.2%)
(主な就職、業界等) IT・情報処理分野、ゲーム・映像業界 ネットワンシステムズ、ANA システムズ、旭情報サービス、エスユーエス、NEC ネットズエスアイ、アイテック阪急阪神、富士ソフト、アルヴィオン Aiming、カプコン、ジーゼ、トリサン、D・A・G、タニスタ、GoHands、ドメリカ、小倉美術印刷、タビオ、ALSOK、G-7 ホールディングス 等			
(就職指導内容)			
<b>【卒業前年度】</b>			
卒業前年度の1年間を通じてクラス担任による就職特別指導の時間枠を設け、自己理解の深化、進路選択における価値観の確立、将来設計の立案等、進路実現のための支援を行うとともに、「就職試験対策」、「履歴書作成」、「面接対策」等の指導を実施している。			
就活スタート時の意識づけのための「キャリアガイダンス」をはじめとして、就活力の確認や就活力をアップするための「キャリアブートキャンプ」、業界・職種研究のための「業界研究セミナー」、専門分野に特化した「ポートフォリオ・面接指導」等を適切な時期に実施している。			
<b>【卒業年度】</b>			
キャリア支援委員会とクラス担任は、一人ひとりの学生の就活準備状況に応じて順次、内定可能な企業への受験指導を実施している。また、就職支援システムの情報を活用して、各学生の就活状況を日々把握するとともに、「個人別」・「個別」に適切な就職受験指導を行い、確実な内定に結び付けている。			
求人企業の説明会を学内へ誘致、また、学校紹介企業を学生に紹介し、学生の企業受験・内			

定に結び付けている。また、企業訪問を中心とした企業連携を深めることで、学内合同/単独企業説明会への誘致企業や学校紹介企業は、学生数に対応した十分な企業数を確保している。
(主な学修成果(資格・検定等)) 応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、情報セキュリティマネジメント試験、ITパスポート試験、CGクリエイター検定エキスパート、秘書技能検定試験準1級
(備考)(任意記載事項) 2年生以上を対象とした学内奨学金制度有 ・特別奨励奨学金制度(20万円・20名) ・学業支援奨学金制度(10万円・40名)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
547人	14人	2.6%
(中途退学の主な理由) 専門分野の学業不振、集団生活への不適應、精神疾患、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生支援は学生生活指導委員会、クラス担任を中心に日々の状況を把握し、学習目標の実現に向けて適切な支援をしている。 具体的には学生との個別面談、日々の出席状況・成績状況のチェック、授業担当との連携、保護者への連絡と連携を基本としている。これは入学時から就職活動期間、卒業時まで継続され、きめ細かなサポート体制を取っている。 精神的な悩みや対人関係がうまくいかない等の問題を抱える学生に対しては、上記の対応以外に専門のカウンセラーが面談を行い、必要に応じて専門機関につなぐといった対応を取っている。 そのほかにも女子新入生歓迎会や留学生交流会の開催、あるいは障がいを持つ学生への配慮等、多様な学生が学業をやり遂げることができるよう支援している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		情報処理専門課程	情報システム開発学科 (単位制)	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	90 単位時間/単位	単位時間 58/単位	単位時間 195/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			256 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		191人	11人	4人	7人	11人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>本校では、観点別に学習成果を明示した卒業認定方針(ディプロマポリシー：DP)に対応して各授業科目のシラバスを作成している。シラバスには「学習一般目標」、「授業の概要及び学習上の助言」に加えて、DP に対応した「学習到達目標」と「学修成果の評価方法」を明示するとともに、学生に対し各授業の初回に説明を行っている。「学習到達目標」については(知識・理解)(思考・判断)(態度)(技能・表現)(関心・意欲)の各観点別教育目標に沿って作成された学部 DP に対応した「学生が達成すべき行動目標」として設定している。</p> <p>また、上記の趣旨、記述方法を記載したシラバス作成のためのガイドラインを定め、講師会等を通じて教員に周知している。作成したシラバスは WEB サイト、および学生ポータルサイトで公開しており、各授業初回に学生に説明している。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>学修成果の評価については、学生が達成すべき行動目標である「学習到達目標」の達成度として評価している。評価方法については、授業時間外での学習課題の設定、中間テストの実施、学生の授業への取り組み状況等によって学習意欲の把握を行うとともに、試験、レポート、作品等の方法により総合評価している。評価の実施方法、評価の割合等の詳細をシラバスにおいて明示し、学生が授業に明確な目標をもって臨めるように工夫している。授業科目の成績は 100 点満点で 60 点以上を合格とし単位を付与する。成績評価基準は、秀(90 点以上)、優(80 点以上 90 点未満)、良(80 点未満 70 点以上)、可(60 点以上 70 点未満)、不可(60 点未満)とする。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>課程修了にあたって、学生が修得することが求められている知識・技能・態度等の観点別に学習成果を明示した卒業の認定方針(DP)を5項目として策定している。この認定方針は修学の手引きに明示し、Web サイトに公表するとともに、オリエンテーション等を通じて学生に周知している。卒業の認定はDPと各授業の到達目標の整合性を担保するカリキュラムマップの作成、DP 項目に対応して学習到達目標を設定したシラバスによる授業展開と適切な成績評価に基づいて行っている。また、卒業の認定方針のより実践的な職業教育への具体化のために、iCD(i コンピテンシーディクショナリ)をベースとして各専門分野での職種を意識した教育課程を開発するなど継続して改善を行っている。</p> <p>卒業判定は本校学務課が学科の卒業要件に基づき卒業判定案を作成、校長が主催する会議の審議を経て、校長が卒業を認定している。</p>



学修支援等
(概要) クラス担任制度を導入し、全学年でゼミナールを通じて学修指導を実施、個人の修学状況を踏まえた個別指導を実施している。特に新入生に対しては、一泊合宿を実施し、将来の職種を見据えた学習へのアプローチとスケジュールを説明している。授業への出席状況は日々、把握し、週間、月間で学生への指導と保護者への出席状況報告等を実施している。また、保護者含めた三者面談を実施する等、学業継続に向けて支援している。前後期終了後には学生保護者に成績、出席状況報告を郵送する等、保護者と連携した学生支援を実施している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
58人 (100%)	0人 (0%)	52人 (89.7%)	6人 (10.3%)

(主な就職、業界等)  
IT・情報処理分野  
コベルコソフトサービス、システナ、NEC ネットスエスアイ、インテグレートトータルシステムック、エスユーエス、サービス&セキュリティ、Pro-X、三和コンピュータ、TOPPAN エッジ IT ソリューション、京セラドキュメントソリューションズジャパン、日本情報産業、アイスター、等

(就職指導内容)  
【卒業前年度】  
卒業前年度の1年間を通じてクラス担任による就職特別指導の時間枠を設け、自己理解の深化、進路選択における価値観の確立、将来設計の立案等、進路実現のための支援を行うとともに、「就職試験対策」、「履歴書作成」、「面接対策」等の指導を実施している。  
就活スタート時の意識づけのための「キャリアガイダンス」をはじめとして、就活力の確認や就活力をアップするための「キャリアブートキャンプ」、業界・職種研究のための「業界研究セミナー」、専門分野に特化した「ポートフォリオ・面接指導」等を適切な時期に実施している。  
【卒業年度】  
キャリア支援委員会とクラス担任は、一人ひとりの学生の就活準備状況に応じて順次、内定可能な企業への受験指導を実施している。また、就職支援システムの情報を活用して、各学生の就活状況を日々把握するとともに、「個人別」・「個別」に適切な就職受験指導を行い、確実な内定に結び付けている。  
求人企業の説明会を学内へ誘致、また、学校紹介企業を学生に紹介し、学生の企業受験・内定に結び付けている。また、企業訪問を中心とした企業連携を深めることで、学内合同/単独企業説明会への誘致企業や学校紹介企業は、学生数に対応した十分な企業数を確保している。

(主な学修成果（資格・検定等）)  
応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、ITパスポート試験、MOS(Excel)エキスパート、MOS(Word)エキスパート

(備考)（任意記載事項）  
2年生以上を対象とした学内奨学金制度有  
・特別奨励奨学金制度（20万円・20名）  
・学業支援奨学金制度（10万円・40名）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率

208 人	11 人	5.3%
<p>(中途退学の主な理由)          専門分野の学業不振、集団生活への不適應、就職、家庭事情</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>学生支援は学生生活指導委員会、クラス担任を中心に日々の状況を把握し、学習目標の実現に向けて適切な支援をしている。</p> <p>具体的には学生との個別面談、日々の出席状況・成績状況のチェック、授業担当との連携、保護者への連絡と連携を基本としている。これは入学時から就職活動期間、卒業時まで継続され、きめ細かなサポート体制を取っている。</p> <p>精神的な悩みや対人関係がうまくいかない等の問題を抱える学生に対しては、上記の対応以外に専門のカウンセラーが面談を行い、必要に応じて専門機関につなぐといった対応を取っている。</p> <p>そのほかにも女子新入生歓迎会や留学生交流会の開催、あるいは障がいを持つ学生への配慮等、多様な学生が学業をやり遂げることができるよう支援している。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		情報処理専門課程	メディアクリエイイト学科 (単位制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	90 単位時間/単位	単位時間 72/単位	単位時間 420/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			495 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	130人	2人	3人	5人	8人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>本校では、観点別に学習成果を明示した卒業認定方針(ディプロマポリシー：DP)に対応して各授業科目のシラバスを作成している。シラバスには「学習一般目標」、「授業の概要及び学習上の助言」に加えて、DP に対応した「学習到達目標」と「学修成果の評価方法」を明示するとともに、学生に対し各授業の初回に説明を行っている。「学習到達目標」については(知識・理解)(思考・判断)(態度)(技能・表現)(関心・意欲)の各観点別教育目標に沿って作成された学部 DP に対応した「学生が達成すべき行動目標」として設定している。</p> <p>また、上記の趣旨、記述方法を記載したシラバス作成のためのガイドラインを定め、講師会等を通じて教員に周知している。作成したシラバスは WEB サイト、および学生ポータルサイトで公開しており、各授業初回に学生に説明している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>学修成果の評価については、学生が達成すべき行動目標である「学習到達目標」の達成度として評価している。評価方法については、授業時間外での学習課題の設定、中間テストの実施、学生の授業への取り組み状況等によって学習意欲の把握を行うとともに、試験、レポート、作品等の方法により総合評価している。評価の実施方法、評価の割合等の詳細をシラバスにおいて明示し、学生が授業に明確な目標をもって臨めるように工夫している。授業科目の成績は 100 点満点で 60 点以上を合格とし単位を付与する。成績評価基準は、秀(90 点以上)、優(80 点以上 90 点未満)、良(70 点以上 80 点未満)、可(60 点以上 70 点未満)、不可(60 点未満)とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>課程修了にあたって、学生が修得することが求められている知識・技能・態度等の観点別に学習成果を明示した卒業の認定方針(DP)を5項目として策定している。この認定方針は修学の手引きに明示し、Web サイトに公表するとともに、オリエンテーション等を通じて学生に周知している。卒業の認定はDPと各授業の到達目標の整合性を担保するカリキュラムマップの作成、DP 項目に対応して学習到達目標を設定したシラバスによる授業展開と適切な成績評価に基づいて行っている。また、卒業の認定方針のより実践的な職業教育への具体化のために、iCD(i コンピテンシーディクショナリ)をベースとして各専門分野での職種を意識した教育課程を開発するなど継続して改善を行っている。</p> <p>卒業判定は本校学務課が学科の卒業要件に基づき卒業判定案を作成、校長が主催する会議の審議を経て、校長が卒業を認定している。</p>

<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>クラス担任制度を導入し、全学年でゼミナールを通じて学修指導を実施、個人の修学状況を踏まえた個別指導を実施している。特に新入生に対しては、一泊合宿を実施し、将来の職種を見据えた学習へのアプローチとスケジュールを説明している。授業への出席状況は日々、把握し、週間、月間で学生への指導と保護者への出席状況報告等を実施している。また、保護者含めた三者面談を実施する等、学業継続に向けて支援している。前後期終了後には学生保護者に成績、出席状況報告を郵送する等、保護者と連携した学生支援を実施している。</p>
---

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
49人 (100%)	0人 (0%)	45人 (91.8%)	4人 (8.2%)

(主な就職、業界等)

IT・情報処理分野、ゲーム・デザイン業界  
アウトソーシングテクノロジー、アスパーク、エクセルコンピュータサービス、日本情報産業、サービス&セキュリティ、GoHands、北星社、オリーブ、マンカ流通グループ、オブアーツプリント、フジアルテ、ALSOK、上新電機、DAIWA CYCLE 読売大阪プリントメディア、関西図書印刷等

(就職指導内容)

**【卒業前年度】**  
卒業前年度の1年間を通じてクラス担任による就職特別指導の時間枠を設け、自己理解の深化、進路選択における価値観の確立、将来設計の立案等、進路実現のための支援を行うとともに、「就職試験対策」、「履歴書作成」、「面接対策」等の指導を実施している。  
就活スタート時の意識づけのための「キャリアガイダンス」をはじめとして、就活力の確認や就活力をアップするための「キャリアブートキャンプ」、業界・職種研究のための「業界研究セミナー」、専門分野に特化した「ポートフォリオ・面接指導」等を適切な時期に実施している。

**【卒業年度】**  
キャリア支援委員会とクラス担任は、一人ひとりの学生の就活準備状況に応じて順次、内定可能な企業への受験指導を実施している。また、就職支援システムの情報を活用して、各学生の就活状況を日々把握するとともに、「個人別」・「個別」に適切な就職受験指導を行い、確実な内定に結び付けている。  
求人企業の説明会を学内へ誘致、また、学校紹介企業を学生に紹介し、学生の企業受験・内定に結び付けている。また、企業訪問を中心とした企業連携を深めることで、学内合同/単独企業説明会への誘致企業や学校紹介企業は、学生数に対応した十分な企業数を確保している。

(主な学修成果（資格・検定等）)

基本情報技術者試験、ITパスポート試験、CGクリエイター検定ベーシック、Webクリエイター能力認定試験スタンダード、MOS(Excel)エキスパート、MOS(Word)エキスパート

(備考) (任意記載事項)

2年生以上を対象とした学内奨学金制度有

- ・特別奨励奨学金制度 (20万円・20名)
- ・学業支援奨学金制度 (10万円・40名)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
148 人	6 人	4.1%
<p>(中途退学の主な理由)            専門分野の学業不振、集団生活への不適應、精神疾患</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>学生支援は学生生活指導委員会、クラス担任を中心に日々の状況を把握し、学習目標の実現に向けて適切な支援をしている。</p> <p>具体的には学生との個別面談、日々の出席状況・成績状況のチェック、授業担当との連携、保護者への連絡と連携を基本としている。これは入学時から就職活動期間、卒業時まで継続され、きめ細かなサポート体制を取っている。</p> <p>精神的な悩みや対人関係がうまくいかない等の問題を抱える学生に対しては、上記の対応以外に専門のカウンセラーが面談を行い、必要に応じて専門機関につなぐといった対応を取っている。</p> <p>そのほかにも女子新入生歓迎会や留学生交流会の開催、あるいは障がいを持つ学生への配慮等、多様な学生が学業をやり遂げることができるよう支援している。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		情報処理専門課程	情報処理科 (単位制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類			
				講義	演習	実習	実験
2年	昼	62 単位時間/単位	単位時間 52/単位	単位時間 147/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			202 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		53人	15人	1人	2人	3人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>本校では、観点別に学習成果を明示した卒業認定方針(ディプロマポリシー: DP)に対応して各授業科目のシラバスを作成している。シラバスには「学習一般目標」、「授業の概要及び学習上の助言」に加えて、DPに対応した「学習到達目標」と「学修成果の評価方法」を明示するとともに、学生に対し各授業の初回に説明を行っている。「学習到達目標」については(知識・理解)(思考・判断)(態度)(技能・表現)(関心・意欲)の各観点別教育目標に沿って作成された学部 DP に対応した「学生が達成すべき行動目標」として設定している。</p> <p>また、上記の趣旨、記述方法を記載したシラバス作成のためのガイドラインを定め、講師会等を通じて教員に周知している。作成したシラバスは WEB サイト、および学生ポータルサイトで公開しており、各授業初回に学生に説明している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>学修成果の評価については、学生が達成すべき行動目標である「学習到達目標」の達成度として評価している。評価方法については、授業時間外での学習課題の設定、中間テストの実施、学生の授業への取り組み状況等によって学習意欲の把握を行うとともに、試験、レポート、作品等の方法により総合評価している。評価の実施方法、評価の割合等の詳細をシラバスにおいて明示し、学生が授業に明確な目標をもって臨めるように工夫している。授業科目の成績は 100 点満点で 60 点以上を合格とし単位を付与する。成績評価基準は、秀(90 点以上)、優(80 点以上 90 点未満)、良(70 点以上 80 点未満)、可(60 点以上 70 点未満)、不可(60 点未満)とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>課程修了にあたって、学生が修得することが求められている知識・技能・態度等の観点別に学習成果を明示した卒業の認定方針(DP)を5項目として策定している。この認定方針は修学の手引きに明示し、Web サイトに公表するとともに、オリエンテーション等を通じて学生に周知している。卒業の認定は DP と各授業の到達目標の整合性を担保するカリキュラムマップの作成、DP 項目に対応して学習到達目標を設定したシラバスによる授業展開と適切な成績評価に基づいて行っている。また、卒業の認定方針のより実践的な職業教育への具体化のために、iCD(i コンピテンシーディクショナリ)をベースとして各専門分野での職種を意識した教育課程を開発するなど継続して改善を行っている。</p> <p>卒業判定は本校学務課が学科の卒業要件に基づき卒業判定案を作成、校長が主催する会議の審議を経て、校長が卒業を認定している。</p>
学修支援等

<p>(概要)</p> <p>クラス担任制度を導入し、全学年でゼミナールを通じて学修指導を実施、個人の修学状況を踏まえた個別指導を実施している。特に新入生に対しては、一泊合宿を実施し、将来の職種を見据えた学習へのアプローチとスケジュールを説明している。授業への出席状況は日々、把握し、週間、月間で学生への指導と保護者への出席状況報告等を実施している。また、保護者含めた三者面談を実施する等、学業継続に向けて支援している。前後期終了後には学生保護者に成績、出席状況報告を郵送する等、保護者と連携した学生支援を実施している。</p>
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
39人 (100%)	0人 (0%)	27人 (69.2%)	12人 (30.8%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>IT・情報処理分野 ソプラ、日本テクノ、ナビオコンピュータ、エクセルコンピュータサービス、日本企画、富士ソフト、京セラドキュメントソリューションズ、フジソフト、大黒天物産、ジャパンエレベーターサービス、アテック等</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p><b>【卒業前年度】</b> 卒業前年度の1年間を通じてクラス担任による就職特別指導の時間枠を設け、自己理解の深化、進路選択における価値観の確立、将来設計の立案等、進路実現のための支援を行うとともに、「就職試験対策」、「履歴書作成」、「面接対策」等の指導を実施している。 就活スタート時の意識づけのための「キャリアガイダンス」をはじめとして、就活力の確認や就活力をアップするための「キャリアブートキャンプ」、業界・職種研究のための「業界研究セミナー」、専門分野に特化した「ポートフォリオ・面接指導」等を適切な時期に実施している。</p> <p><b>【卒業年度】</b> キャリア支援委員会とクラス担任は、一人ひとりの学生の就活準備状況に応じて順次、内定可能な企業への受験指導を実施している。また、就職支援システムの情報を活用して、各学生の就活状況を日々把握するとともに、「個人別」・「個別」に適切な就職受験指導を行い、確実な内定に結び付けている。 求人企業の説明会を学内へ誘致、また、学校紹介企業を学生に紹介し、学生の企業受験・内定に結び付けている。また、企業訪問を中心とした企業連携を深めることで、学内合同/単独企業説明会への誘致企業や学校紹介企業は、学生数に対応した十分な企業数を確保している。</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>基本情報技術者試験、ITパスポート試験、MOS(Excel)エキスパート</p>			
<p>(備考)（任意記載事項）</p> <p>2年生以上を対象とした学内奨学金制度有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別奨励奨学金制度（20万円・20名）</li> <li>・学業支援奨学金制度（10万円・40名）</li> </ul>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
56人	3人	5.4%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>専門分野の学業不振、就職</p>		

(中退防止・中退者支援のための取組)

学生支援は学生生活指導委員会、クラス担任を中心に日々の状況を把握し、学習目標の実現に向けて適切な支援をしている。

具体的には学生との個別面談、日々の出席状況・成績状況のチェック、授業担当との連携、保護者への連絡と連携を基本としている。これは入学時から就職活動期間、卒業時まで継続され、きめ細かなサポート体制を取っている。

精神的な悩みや対人関係がうまくいかない等の問題を抱える学生に対しては、上記の対応以外に専門のカウンセラーが面談を行い、必要に応じて専門機関につなぐといった対応を取っている。

そのほかにも女子新入生歓迎会や留学生交流会の開催、あるいは障がいを持つ学生への配慮等、多様な学生が学業をやり遂げることができるよう支援している。



分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		情報処理専門課程	IT テクニカル学科 (単位制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位時間/単位	単位時間 54/単位	単位時間 161/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			218 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		28人	8人	1人	1人	2人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>本校では、観点別に学習成果を明示した卒業認定方針(ディプロマポリシー: DP)に対応して各授業科目のシラバスを作成している。シラバスには「学習一般目標」、「授業の概要及び学習上の助言」に加えて、DP に対応した「学習到達目標」と「学修成果の評価方法」を明示するとともに、学生に対し各授業の初回に説明を行っている。「学習到達目標」については(知識・理解)(思考・判断)(態度)(技能・表現)(関心・意欲)の各観点別教育目標に沿って作成された学部 DP に対応した「学生が達成すべき行動目標」として設定している。</p> <p>また、上記の趣旨、記述方法を記載したシラバス作成のためのガイドラインを定め、講師会等を通じて教員に周知している。作成したシラバスは WEB サイト、および学生ポータルサイトで公開しており、各授業初回に学生に説明している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>学修成果の評価については、学生が達成すべき行動目標である「学習到達目標」の達成度として評価している。評価方法については、授業時間外での学習課題の設定、中間テストの実施、学生の授業への取り組み状況等によって学習意欲の把握を行うとともに、試験、レポート、作品等の方法により総合評価している。評価の実施方法、評価の割合等の詳細をシラバスにおいて明示し、学生が授業に明確な目標をもって臨めるように工夫している。授業科目の成績は 100 点満点で 60 点以上を合格とし単位を付与する。成績評価基準は、秀(90 点以上)、優(80 点以上 90 点未満)、良(70 点以上 80 点未満)、可(60 点以上 70 点未満)、不可(60 点未満)とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>課程修了にあたって、学生が修得することが求められている知識・技能・態度等の観点別に学習成果を明示した卒業の認定方針(DP)を 5 項目として策定している。この認定方針は修学の手引きに明示し、Web サイトに公表するとともに、オリエンテーション等を通じて学生に周知している。卒業の認定は DP と各授業の到達目標の整合性を担保するカリキュラムマップの作成、DP 項目に対応して学習到達目標を設定したシラバスによる授業展開と適切な成績評価に基づいて行っている。また、卒業の認定方針のより実践的な職業教育への具体化のために、iCD(i コンピテンシーディクショナリ)をベースとして各専門分野での職種を意識した教育課程を開発するなど継続して改善を行っている。</p> <p>卒業判定は本校学務課が学科の卒業要件に基づき、卒業判定案を作成、校長が主催する会議の審議を経て、校長が卒業を認定している。</p>
学修支援等

<p>(概要)</p> <p>クラス担任制度を導入し、全学年でゼミナールを通じて学修指導を実施、個人の修学状況を踏まえた個別指導を実施している。特に新入生に対しては、一泊合宿を実施し、将来の職種を見据えた学習へのアプローチとスケジュールを説明している。授業への出席状況は日々、把握し、週間、月間で学生への指導と保護者への出席状況報告等を実施している。また、保護者含めた三者面談を実施する等、学業継続に向けて支援している。前後期終了後には学生保護者に成績、出席状況報告を郵送する等、保護者と連携した学生支援を実施している。</p>
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
18人 (100%)	0人 (0%)	17人 (94.4%)	1人 (5.6%)

(主な就職、業界等)  
 CTC テクノロジー、日本インフォメーション、エスユーエス、日本総研情報サービス、大和システム、近鉄情報システム、富士ソフト、近鉄情報システム、アクターリアリティ等

(就職指導内容)

**【卒業前年度】**  
 卒業前年度の1年間を通じてクラス担任による就職特別指導の時間枠を設け、自己理解の深化、進路選択における価値観の確立、将来設計の立案等、進路実現のための支援を行うとともに、「就職試験対策」、「履歴書作成」、「面接対策」等の指導を実施している。  
 就活スタート時の意識づけのための「キャリアガイダンス」をはじめとして、就活力の確認や就活力をアップするための「キャリアブートキャンプ」、業界・職種研究のための「業界研究セミナー」、専門分野に特化した「ポートフォリオ・面接指導」等を適切な時期に実施している。

**【卒業年度】**  
 キャリア支援委員会とクラス担任は、一人ひとりの学生の就活準備状況に応じて順次、内定可能な企業への受験指導を実施している。また、就職支援システムの情報を活用して、各学生の就活状況を日々把握するとともに、「個人別」・「個別」に適切な就職受験指導を行い、確実な内定に結び付けている。  
 求人企業の説明会を学内へ誘致、また、学校紹介企業を学生に紹介し、学生の企業受験・内定に結び付けている。また、企業訪問を中心とした企業連携を深めることで、学内合同/単独企業説明会への誘致企業や学校紹介企業は、学生数に対応した十分な企業数を確保している。

(主な学修成果 (資格・検定等))

応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、IT パスポート試験

(備考) (任意記載事項)

2年生以上を対象とした学内奨学金制度有  
 ・特別奨励奨学金制度 (20万円・20名)  
 ・学業支援奨学金制度 (10万円・40名)

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
34人	1人	2.9%

(中途退学の主な理由)  
専門分野の学業不振

(中退防止・中退者支援のための取組)

学生支援は学生生活指導委員会、クラス担任を中心に日々の状況を把握し、学習目標の実現に向けて適切な支援をしている。

具体的には学生との個別面談、日々の出席状況・成績状況のチェック、授業担当との連携、保護者への連絡と連携を基本としている。これは入学時から就職活動期間、卒業時まで継続され、きめ細かなサポート体制を取っている。

精神的な悩みや対人関係がうまくいかない等の問題を抱える学生に対しては、上記の対応以外に専門のカウンセラーが面談を行い、必要に応じて専門機関につなぐといった対応を取っている。

そのほかにも女子新入生歓迎会や留学生交流会の開催、あるいは障がいを持つ学生への配慮等、多様な学生が学業をやり遂げることができるよう支援している。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		情報処理専門課程	IT ビジネス学科 (単位制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位時間/単位	単位時間 82/単位	単位時間 129/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			214 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	56人	5人	1人	3人	4人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>本校では、観点別に学習成果を明示した卒業認定方針(ディプロマポリシー：DP)に対応して各授業科目のシラバスを作成している。シラバスには「学習一般目標」、「授業の概要及び学習上の助言」に加えて、DP に対応した「学習到達目標」と「学修成果の評価方法」を明示するとともに、学生に対し各授業の初回に説明を行っている。「学習到達目標」については(知識・理解)(思考・判断)(態度)(技能・表現)(関心・意欲)の各観点別教育目標に沿って作成された学部 DP に対応した「学生が達成すべき行動目標」として設定している。</p> <p>また、上記の趣旨、記述方法を記載したシラバス作成のためのガイドラインを定め、講師会等を通じて教員に周知している。作成したシラバスは WEB サイト、および学生ポータルサイトで公開しており、各授業初回に学生に説明している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>学修成果の評価については、学生が達成すべき行動目標である「学習到達目標」の達成度として評価している。評価方法については、授業時間外での学習課題の設定、中間テストの実施、学生の授業への取り組み状況等によって学習意欲の把握を行うとともに、試験、レポート、作品等の方法により総合評価している。評価の実施方法、評価の割合等の詳細をシラバスにおいて明示し、学生が授業に明確な目標をもって臨めるように工夫している。授業科目の成績は 100 点満点で 60 点以上を合格とし単位を付与する。成績評価基準は、秀(90 点以上)、優(80 点以上 90 点未満)、良(70 点以上 80 点未満)、可(60 点以上 70 点未満)、不可(60 点未満)とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>課程修了にあたって、学生が修得することが求められている知識・技能・態度等の観点別に学習成果を明示した卒業の認定方針(DP)を 5 項目として策定している。この認定方針は修学の手引きに明示し、Web サイトに公表するとともに、オリエンテーション等を通じて学生に周知している。卒業の認定は DP と各授業の到達目標の整合性を担保するカリキュラムマップの作成、DP 項目に対応して学習到達目標を設定したシラバスによる授業展開と適切な成績評価に基づいて行っている。また、卒業の認定方針のより実践的な職業教育への具体化のために、iCD(i コンピテンシーディクショナリ)をベースとして各専門分野での職種を意識した教育課程を開発するなど継続して改善を行っている。</p> <p>卒業判定は本校学務課が学科の卒業要件に基づき卒業判定案を作成、校長が主催する会議の審議を経て、校長が卒業を認定している。</p>
学修支援等

<p>(概要)</p> <p>クラス担任制度を導入し、全学年でゼミナールを通じて学修指導を実施、個人の修学状況を踏まえた個別指導を実施している。特に新生に対しては、一泊合宿を実施し、将来の職種を見据えた学習へのアプローチとスケジュールを説明している。授業への出席状況は日々、把握し、週間、月間で学生への指導と保護者への出席状況報告等を実施している。また、保護者含めた三者面談を実施する等、学業継続に向けて支援している。前後期終了後には学生保護者に成績、出席状況報告を郵送する等、保護者と連携した学生支援を実施している。</p>
---

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
34人 (100%)	2人 ( 5.9%)	25人 ( 73.5%)	7人 ( 20.6%)

(主な就職、業界等)

IT・情報処理分野、販売・小売り、製造  
 イナハラ、岩通サービスセンター、中央電機、ALSOK、フジアルテ、プレサズコーポレーション、G-7 ホールディング、アデコ、テイル、日研トータルソーシング、日本トラフィックサービス 等

(就職指導内容)

**【卒業前年度】**  
 卒業前年度の1年間を通じてクラス担任による就職特別指導の時間枠を設け、自己理解の深化、進路選択における価値観の確立、将来設計の立案等、進路実現のための支援を行うとともに、「就職試験対策」、「履歴書作成」、「面接対策」等の指導を実施している。  
 就活スタート時の意識づけのための「キャリアガイダンス」をはじめとして、就活力の確認や就活力をアップするための「キャリアブートキャンプ」、業界・職種研究のための「業界研究セミナー」、専門分野に特化した「ポートフォリオ・面接指導」等を適切な時期に実施している。

**【卒業年度】**  
 キャリア支援委員会とクラス担任は、一人ひとりの学生の就活準備状況に応じて順次、内定可能な企業への受験指導を実施している。また、就職支援システムの情報を活用して、各学生の就活状況を日々把握するとともに、「個人別」・「個別」に適切な就職受験指導を行い、確実な内定に結び付けている。  
 求人企業の説明会を学内へ誘致、また、学校紹介企業を学生に紹介し、学生の企業受験・内定に結び付けている。また、企業訪問を中心とした企業連携を深めることで、学内合同/単独企業説明会への誘致企業や学校紹介企業は、学生数に対応した十分な企業数を確保している。

(主な学修成果 (資格・検定等) )  
 応用情報技術者試験、基本情報技術者試験、IT パスポート試験

(備考) (任意記載事項)  
 2年生以上を対象とした学内奨学金制度有  
 ・特別奨励奨学金制度 (20万円・20名)  
 ・学業支援奨学金制度 (10万円・40名)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
63人	3人	4.8%

(中途退学の主な理由)  
専門分野の学業不振、集団生活への不適応

(中退防止・中退者支援のための取組)  
学生支援は学生生活指導委員会、クラス担任を中心に日々の状況を把握し、学習目標の実現に向けて適切な支援をしている。  
具体的には学生との個別面談、日々の出席状況・成績状況のチェック、授業担当との連携、保護者への連絡と連携を基本としている。これは入学時から就職活動期間、卒業時まで継続され、きめ細かなサポート体制を取っている。  
精神的な悩みや対人関係がうまくいかない等の問題を抱える学生に対しては、上記の対応以外に専門のカウンセラーが面談を行い、必要に応じて専門機関につなぐといった対応を取っている。  
そのほかにも女子新入生歓迎会や留学生交流会の開催、あるいは障がいを持つ学生への配慮等、多様な学生が学業をやり遂げることができるよう支援している。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		情報処理専門課程	ゲーム学科 (単位制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位時間/単位	単位時間 60/単位	単位時間 243/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			306 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	32人	5人	1人	1人	2人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>本校では、観点別に学習成果を明示した卒業認定方針(ディプロマポリシー：DP)に対応して各授業科目のシラバスを作成している。シラバスには「学習一般目標」、「授業の概要及び学習上の助言」に加えて、DP に対応した「学習到達目標」と「学修成果の評価方法」を明示するとともに、学生に対し各授業の初回に説明を行っている。「学習到達目標」については(知識・理解)(思考・判断)(態度)(技能・表現)(関心・意欲)の各観点別教育目標に沿って作成された学部 DP に対応した「学生が達成すべき行動目標」として設定している。</p> <p>また、上記の趣旨、記述方法を記載したシラバス作成のためのガイドラインを定め、講師会等を通じて教員に周知している。作成したシラバスは WEB サイト、および学生ポータルサイトで公開しており、各授業初回に学生に説明している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>学修成果の評価については、学生が達成すべき行動目標である「学習到達目標」の達成度として評価している。評価方法については、授業時間外での学習課題の設定、中間テストの実施、学生の授業への取り組み状況等によって学習意欲の把握を行うとともに、試験、レポート、作品等の方法により総合評価している。評価の実施方法、評価の割合等の詳細をシラバスにおいて明示し、学生が授業に明確な目標をもって臨めるように工夫している。授業科目の成績は 100 点満点で 60 点以上を合格とし単位を付与する。成績評価基準は、秀(90 点以上)、優(80 点以上 90 点未満)、良(70 点以上 80 点未満)、可(60 点以上 70 点未満)、不可(60 点未満)とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>課程修了にあたって、学生が修得することが求められている知識・技能・態度等の観点別に学習成果を明示した卒業の認定方針(DP)を5項目として策定している。この認定方針は修学の手引きに明示し、Web サイトに公表するとともに、オリエンテーション等を通じて学生に周知している。卒業の認定は DP と各授業の到達目標の整合性を担保するカリキュラムマップの作成、DP 項目に対応して学習到達目標を設定したシラバスによる授業展開と適切な成績評価に基づいて行っている。また、卒業の認定方針のより実践的な職業教育への具体化のために、iCD(i コンピテンシーディクショナリ)をベースとして各専門分野での職種を意識した教育課程を開発するなど継続して改善を行っている。</p> <p>卒業判定は本校学務課が学科の卒業要件に基づき卒業判定案を作成、校長が主催する会議の審議を経て、校長が卒業を認定している。</p>
学修支援等

<p>(概要)</p> <p>クラス担任制度を導入し、全学年でゼミナールを通じて学修指導を実施、個人の修学状況を踏まえた個別指導を実施している。特に新入生に対しては、一泊合宿を実施し、将来の職種を見据えた学習へのアプローチとスケジュールを説明している。授業への出席状況は日々、把握し、週間、月間で学生への指導と保護者への出席状況報告等を実施している。また、保護者含めた三者面談を実施する等、学業継続に向けて支援している。前後期終了後には学生保護者に成績、出席状況報告を郵送する等、保護者と連携した学生支援を実施している。</p>
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
16人 (100%)	0人 (0%)	14人 (87.5%)	2人 (12.5%)

(主な就職、業界等)

IT・情報処理分野、製造・物流・小売業界  
 三和コンピュータ、あじよ、タイムテック、読売大阪プリントメディア、センターワールド、ALSOK、ジェイワイテックス、中川医院、等

(就職指導内容)

**【卒業前年度】**  
 卒業前年度の1年間を通じてクラス担任による就職特別指導の時間枠を設け、自己理解の深化、進路選択における価値観の確立、将来設計の立案等、進路実現のための支援を行うとともに、「就職試験対策」、「履歴書作成」、「面接対策」等の指導を実施している。  
 就活スタート時の意識づけのための「キャリアガイダンス」をはじめとして、就活力の確認や就活力をアップするための「キャリアブートキャンプ」、業界・職種研究のための「業界研究セミナー」、専門分野に特化した「ポートフォリオ・面接指導」等を適切な時期に実施している。

**【卒業年度】**  
 キャリア支援委員会とクラス担任は、一人ひとりの学生の就活準備状況に応じて順次、内定可能な企業への受験指導を実施している。また、就職支援システムの情報を活用して、各学生の就活状況を日々把握するとともに、「個人別」・「個別」に適切な就職受験指導を行い、確実な内定に結び付けている。  
 求人企業の説明会を学内へ誘致、また、学校紹介企業を学生に紹介し、学生の企業受験・内定に結び付けている。また、企業訪問を中心とした企業連携を深めることで、学内合同/単独企業説明会への誘致企業や学校紹介企業は、学生数に対応した十分な企業数を確保している。

(主な学修成果（資格・検定等）)

基本情報技術者試験、MOS(Excel)、CGクリエイター検定ベーシック

(備考)（任意記載事項）

2年生以上を対象とした学内奨学金制度有

- ・特別奨励奨学金制度（20万円・20名）
- ・学業支援奨学金制度（10万円・40名）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22人	1人	4.5%



(中途退学の主な理由)  
専門分野の学業不振

(中退防止・中退者支援のための取組)

学生支援は学生生活指導委員会、クラス担任を中心に日々の状況を把握し、学習目標の実現に向けて適切な支援をしている。

具体的には学生との個別面談、日々の出席状況・成績状況のチェック、授業担当との連携、保護者への連絡と連携を基本としている。これは入学時から就職活動期間、卒業時まで継続され、きめ細かなサポート体制を取っている。

精神的な悩みや対人関係がうまくいかない等の問題を抱える学生に対しては、上記の対応以外に専門のカウンセラーが面談を行い、必要に応じて専門機関につなぐといった対応を取っている。

そのほかにも女子新入生歓迎会や留学生交流会の開催、あるいは障がいを持つ学生への配慮等、多様な学生が学業をやり遂げることができるよう支援している。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		情報処理専門課程	メディアデザイン学科 (単位制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	62 単位時間/単位	単位時間 32/単位	単位時間 243/単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			278 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		88人	17人	2人	3人	5人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>本校では、観点別に学習成果を明示した卒業認定方針(ディプロマポリシー:DP)に対応して各授業科目のシラバスを作成している。シラバスには「学習一般目標」、「授業の概要及び学習上の助言」に加えて、DPに対応した「学習到達目標」と「学修成果の評価方法」を明示するとともに、学生に対し各授業の初回に説明を行っている。「学習到達目標」については(知識・理解)(思考・判断)(態度)(技能・表現)(関心・意欲)の各観点別教育目標に沿って作成された学部DPに対応した「学生が達成すべき行動目標」として設定している。</p> <p>また、上記の趣旨、記述方法を記載したシラバス作成のためのガイドラインを定め、講師会等を通じて教員に周知している。作成したシラバスはWEBサイト、および学生ポータルサイトで公開しており、各授業初回に学生に説明している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>学修成果の評価については、学生が達成すべき行動目標である「学習到達目標」の達成度として評価している。評価方法については、授業時間外での学習課題の設定、中間テストの実施、学生の授業への取り組み状況等によって学習意欲の把握を行うとともに、試験、レポート、作品等の方法により総合評価している。評価の実施方法、評価の割合等の詳細をシラバスにおいて明示し、学生が授業に明確な目標をもって臨めるように工夫している。授業科目の成績は100点満点で60点以上を合格とし単位を付与する。成績評価基準は、秀(90点以上)、優(80点以上90点未満)、良(70点以上80点未満)、可(60点以上70点未満)、不可(60点未満)とする。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>課程修了にあたって、学生が修得することが求められている知識・技能・態度等の観点別に学習成果を明示した卒業の認定方針(DP)を5項目として策定している。この認定方針は修学の手引きに明示し、Webサイトに公表するとともに、オリエンテーション等を通じて学生に周知している。卒業の認定はDPと各授業の到達目標の整合性を担保するカリキュラムマップの作成、DP項目に対応して学習到達目標を設定したシラバスによる授業展開と適切な成績評価に基づいて行っている。また、卒業の認定方針のより実践的な職業教育への具体化のために、iCD(iコンピテンシーディクショナリ)をベースとして各専門分野での職種を意識した教育課程を開発するなど継続して改善を行っている。</p> <p>卒業判定は本校学務課が学科の卒業要件に基づき、卒業判定案を作成、校長が主催する会議の審議を経て、校長が卒業を認定している。</p>
学修支援等

<p>(概要)</p> <p>クラス担任制度を導入し、全学年でゼミナールを通じて学修指導を実施、個人の修学状況を踏まえた個別指導を実施している。特に新生生に対しては、一泊合宿を実施し、将来の職種を見据えた学習へのアプローチとスケジュールを説明している。授業への出席状況は日々、把握し、週間、月間で学生への指導と保護者への出席状況報告等を実施している。また、保護者を含めた三者面談を実施する等、学業継続に向けて支援している。前後期終了後には学生保護者に成績、出席状況報告を郵送する等、保護者と連携した学生支援を実施している。</p>
---

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
40人 (100%)	2人 ( 5.0%)	31人 ( 77.5%)	7人 ( 17.5%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>デザイン、ゲーム、WEB、出版、映像業界          オルガンソフト、ザザホラヤ、リタワークス、タニスタ、TOPFILM、読売大阪プリントメディア、みつえーリンクス、TOPPAN グラフィックコミュニケーションズ、ALSOC、大黒天物産、アミューズ等</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p><b>【卒業前年度】</b>          卒業前年度の1年間を通じてクラス担任による就職特別指導の時間枠を設け、自己理解の深化、進路選択における価値観の確立、将来設計の立案等、進路実現のための支援を行うとともに、「就職試験対策」、「履歴書作成」、「面接対策」等の指導を実施している。          就活スタート時の意識づけのための「キャリアガイダンス」をはじめとして、就活力の確認や就活力をアップするための「キャリアブートキャンプ」、業界・職種研究のための「業界研究セミナー」、専門分野に特化した「ポートフォリオ・面接指導」等を適切な時期に実施している。</p> <p><b>【卒業年度】</b>          キャリア支援委員会とクラス担任は、一人ひとりの学生の就活準備状況に応じて順次、内定可能な企業への受験指導を実施している。また、就職支援システムの情報を活用して、各学生の就活状況を日々把握するとともに、「個人別」・「個別」に適切な就職受験指導を行い、確実な内定に結び付けている。          求人企業の説明会を学内へ誘致、また、学校紹介企業を学生に紹介し、学生の企業受験・内定に結び付けている。また、企業訪問を中心とした企業連携を深めることで、学内合同/単独企業説明会への誘致企業や学校紹介企業は、学生数に対応した十分な企業数を確保している。</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>ITパスポート試験、Webクリエイター能力認定試験スタンダード、CGクリエイター検定ベーシック、MOS(Excel)</p>			
<p>(備考) (任意記載事項)</p> <p>2年生以上を対象とした学内奨学金制度有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別奨励奨学金制度 (20万円・20名)</li> <li>・学業支援奨学金制度 (10万円・40名)</li> </ul>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率

80人	4人	5.0%
<p>(中途退学の主な理由) 専門分野の学業不振、集団生活への不適應</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)          学生支援は学生生活指導委員会、クラス担任を中心に日々の状況を把握し、学習目標の実現に向けて適切な支援をしている。          具体的には学生との個別面談、日々の出席状況・成績状況のチェック、授業担当との連携、保護者への連絡と連携を基本としている。これは入学時から就職活動期間、卒業時まで継続され、きめ細かなサポート体制を取っている。          精神的な悩みや対人関係がうまくいかない等の問題を抱える学生に対しては、上記の対応以外に専門のカウンセラーが面談を行い、必要に応じて専門機関につなぐといった対応を取っている。          そのほかにも女子新入生歓迎会や留学生交流会の開催、あるいは障がいを持つ学生への配慮等、多様な学生が学業をやり遂げることができるよう支援している。</p>		

## ②学校単位の情報

### a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
総合情報メディア	120,000円	600,000円	330,000円	実習費、施設・設備費
情報システム開発	120,000円	600,000円	330,000円	実習費、施設・設備費
メディアクリエイト	120,000円	600,000円	330,000円	実習費、施設・設備費
情報処理	120,000円	600,000円	330,000円	実習費、施設・設備費
ITテクニカル	120,000円	600,000円	330,000円	実習費、施設・設備費
ITビジネス	120,000円	600,000円	330,000円	実習費、施設・設備費
ゲーム	120,000円	600,000円	330,000円	実習費、施設・設備費
メディアデザイン	120,000円	600,000円	330,000円	実習費、施設・設備費
修学支援 (任意記載事項)				

### b) 学校評価

<p>自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.oic.ac.jp/about/disclosure.html">https://www.oic.ac.jp/about/disclosure.html</a></p>
<p>学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) (1) 学校関係者評価の基本方針          本校の教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について自己評価を実施・公表することにより、組織的・継続的な改善を図る。また、自己評価の結果に対し、卒業生、関係業界、本校と接続する学校、保護者など学校関係者による評価を実施・公表することにより、自己評価結果の客観性・透明性を高め、また説明責任を果たすとともに、学校関係者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。</p>

## (2) 評価項目

「専修学校における学校評価ガイドライン」に対応した以下の項目について評価を実施している。

1. 学校の教育目標
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画
3. 評価項目の達成及び取組状況
  - (1) 教育理念・目標
  - (2) 学校運営
  - (3) 教育活動
  - (4) 学修成果
  - (5) 学生支援
  - (6) 教育環境
  - (7) 学生募集
  - (8) 財務
  - (9) 法令等の遵守
  - (10) 社会貢献・地域貢献
  - (11) 国際交流
4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

## (3) 委員の構成

- ① 専攻分野に関する企業等の役員又は職員（企業等委員）
- ② 保護者
- ③ 卒業生
- ④ 専修学校との接続がある学校の関係者

## (4) 活用方法

< 2023年7月4日実施の学校関係者評価に基づく >

・コロナ禍のオンライン授業で学生が身につけた「自ら学ぶ姿勢」を一層伸ばさせるため、「課題解決型授業」というプログラムを授業内に取り入れた。これは、科目特性に応じた多様な教育方法によって、実践的かつ発展的な内容で実施する遠隔授業のことである。

実施にあたっては、昨年度導入した学生ポータルサイトの一機能である LMS（学習支援システム）を活用する。また、前後期の終了時に全科目・全学生から評価アンケートを実施し、教育効果を高めるための改善に向けた PDCA に活用する。

・コロナ禍であっても人と人の繋がりをもって人間的に成長ができるよう、集合型のイベントに限らず、オンラインを活用したクラス交流プログラムやグループワーク、職業・分野理解のためのオンラインイベント等を企画し、実施した。

・「仕事マインド」を育む教育の取り組みを強化するため、入学直後より分野に応じた業界や職業を意識するためのイベント・プログラムを企画し、継続的に実施することとした。

・本校では「未来の産業社会で活躍できる中堅技術者を養成する」ことを DP（学習・教育到達目標）としている。人工知能・VR・メタバースなどの先進的な技術をすぐさまカリキュラム等に取り入れる計画はないが、システム開発演習やエクステンションの授業、クラブ活動等の課外活動で徐々に取り入れることとした。

・学生のポートフォリオ(作品集)の完成度をムラなく高めるため、完成まで定期的にチェックを入れる体制を整備し、客観的な意見を聞き作品のブラッシュアップできる機会を一層増やすこととした。

・就職支援について、就活のためのテクニカルな指導だけでなく、学生自身が内省する機会を

<p>増やし、自己理解や職種理解を深めることに力を入れることとした。学生自身が持っているものをアウトプットできる力を引き出すサポートを強化する。</p> <p>・過年度実施した卒業生に対する大規模追跡調査アンケート等を用いて各企業で活躍する卒業生の情報を分析し、「企業と学生のマッチング」の精度を高めるための仕組みづくりに活用する。さらには本校の教育活動を評価するエビデンスとして、一層の教育改革につなげることとした。</p>		
<p>学校関係者評価の委員</p>		
所属	任期	種別
Pro-X 株式会社	2023/6/1～2024/3/31 2024/6/1～2025/3/31 (任期更新)	企業等委員
株式会社ウィズ・ソフトウェア	2023/6/1～2024/3/31 2024/6/1～2025/3/31 (任期更新)	企業等委員
株式会社 COMET DESIGN WORKS	2023/6/1～2024/3/31 2024/6/1～2025/3/31 (任期更新)	企業等委員
株式会社タニスタ	2023/6/1～2024/3/31 2024/6/1～2025/3/31 (任期更新)	企業等委員
株式会社エアーポートカーゴサービス	2023/6/1～2024/3/31 2024/6/1～2025/3/31 (任期更新)	企業等委員
科学技術学園高校	2023/6/1～2024/3/31 2024/6/1～2025/3/31 (任期更新)	接続する学校の関係者
保護者	2024/6/1～2025/3/31 (新規就任)	保護者
保護者	2023/6/1～2024/3/31 (任期終了)	保護者
卒業生、株式会社ナック	2023/6/1～2024/3/31 2024/6/1～2025/3/31 (任期更新)	卒業生
<p>学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.oic.ac.jp/about/disclosure.html">https://www.oic.ac.jp/about/disclosure.html</a></p>		
<p>第三者による学校評価 (任意記載事項)</p>		
<p> </p>		

c) 当該学校に係る情報

<p>(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)</p> <p>専門学校における情報提供等への取組に関するガイドラインを踏まえた情報公開      全て <a href="https://www.oic.ac.jp/about/disclosure.html">https://www.oic.ac.jp/about/disclosure.html</a> より閲覧可能</p>
---

1. 学校の概要、目標及び計画 2. 各学科の教育 3. 教職員 4. キャリア教育・実践的職業教育 5. 様々な教育活動・教育環境 6. 学生への生活支援 7. 学生納付金・就学支援 10. 国際連携の状況

以上、「学校情報」 [https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc11\\_sir.pdf](https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc11_sir.pdf)

8. 学校の財務（別途掲載）

「貸借対照表」 [https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc61\\_bls.pdf](https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc61_bls.pdf)

「資金収支計算書」 [https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc62\\_cfs.pdf](https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc62_cfs.pdf)

「事業活動収支計算書」 [https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc63\\_cbs.pdf](https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc63_cbs.pdf)

「財産目録」 [https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc64\\_iop.pdf](https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc64_iop.pdf)

「事業報告書」 [https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc65\\_ras.pdf](https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc65_ras.pdf)

「監事による監査報告書」 [https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc66\\_aar.pdf](https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc66_aar.pdf)

「独立監査人の監査報告書」 [https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc67\\_iar.pdf](https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc67_iar.pdf)

9. 学校評価（別途掲載）

「自己評価報告書」 [https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc21\\_sar.pdf](https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc21_sar.pdf)

「学校関係者評価報告書」 [https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc22\\_oar.pdf](https://www.oic.ac.jp/about/pdf/doc22_oar.pdf)

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H127310001307
学校名 (〇〇大学 等)	大阪情報コンピュータ専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 大阪経理経済学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		268人	253人	一人
内訳	第Ⅰ区分	185人	181人	
	第Ⅱ区分	45人	45人	
	第Ⅲ区分	38人	27人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者 (年間)				一人
合計 (年間)				278人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数



	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	一人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	一人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	一人	0人
計	一人	一人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。） 及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	一人	一人	一人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	一人	0人	0人
計	44人	一人	一人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。